

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	アフィニス夏の音楽祭開催事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)	
部等名	教育委員会	課等名	文化会館		包含する細々目	1	10	5	7	11	2	11,000	
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり												
施策	27 文化芸術の振興												
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議		不要							
		事業期間	1	年度～	年度	関連計画条列等							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	飯田市民及びクラシック音楽を愛好する人々。	飯田市の人口(人) (H18.10.1推計人口)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
			107844	107000		
	クラシック音楽に気軽に触れる機会とする。	人口に対する音楽祭参加者数の比率	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		最終目標達成年度
			108000			
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
	18年度実績	18目標	5	最終目標	6	
		18実績	5	19目標	5	↑
		23目標		23実績		
		18目標		最終目標		
	19年度計画	18実績		19目標		↑
		23目標		23実績		
		23目標		23実績		

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	アフィニス文化財団主催による国内のブローケストラ団員育成のためのセミナー。 セミナーレッスンの一般公開、集大成としての演奏会のほか、市民の身近で行う演奏会、小中学生のための特別演奏会、アウトリーチ活動としての「ふれあいコンサート」などを実施。 細目目：アフィニス夏の音楽祭開催事業費	開催日：平成18年8月17日～23日 音楽祭の基本的なコンセプトを守りながらも、新たなプログラムの開発をおこない、より多くの市民の関心を得られるようにしていく。また、公開セミナーへの聴講者数増加を図る。 飯田演奏会 の集客数維持(人)	演奏会等の数(回) 公開セミナーへの参加者数(のべ人) 演奏会の聴衆者数は指標としないが成果指標から見ると全部で5,000人規模と思われるが、	5回 907人
	公開セミナーの集大成として行っている2回の演奏会、子どものための「あいうえ音楽館」、市民の近くへ出かけていく「くつろぎコンサート」や「ふれあいコンサート」を継続して開催するとともに、音楽祭(クラシック音楽)が、より身近に感じられる事業を取り入れられるようはたらきかける。 21回目以降の方向性について、市民参加を得ながら財団とともに方向性を探り、一定の方向性を出す。	演奏会等の回数 公開セミナーへの参加者数	5回 750人	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	9,700	11,000
	事業費計(A)	9,700	11,000
人件費	正規職員所要時間	18年度 1,000	19年度 1,000
	臨時職員等所要時間	300	300
	人件費計(B)	3,899	3,899
	トータルコストA+B	13,599	14,899

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	文化活動を主体的に担う	文化芸術活動に無縁な生活をおくっている人の割合(減らす)	現状値		19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	
	文化創造活動に自ら主体的に関わっている市民の数		現状値		19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
アフィニス文化財団が、本音楽祭を地方で開催することを検討した際、本市が人形劇カーニバルを開催している実績を踏まえ、20回までは本市で開催することを決定した。	クラシック音楽は敷居の高いものと考えられてきたが、年々クラシック音楽に親しむ市民が増え、市民による自主的な活動として音楽関係の団体(飯田交響楽団等)が増加するとともに、市民による演奏会も数多く開催されるようになった。	議会や公民館からは、くつろぎコンサートについて身近で一流の演奏家によるセミナーや演奏会に触れられる機会と捉え、希望する声が寄せられている。また、あいうえ音楽館は子供たちが親しみやすいクラシック音楽を聴くことができる機会として、また地元アマチュアが出演できる貴重な機会としての評価が高い。

【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がある (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 可能 (その理由)
			公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	財団と協力して市民が音楽祭に親んでもらえる企画を増やした。 子どものための「あいうえ音楽館」を演奏会としての「あいうえオーケストラ」、未就学児童とその親子を対象にした「あいうえ親子コンサート」、体験型プログラムとして指揮者体験をおこなう「あいうえ音楽教室」を開催。また、音楽会に来られない病院の患者さんやその家族、ヘルパーさんを対象にしたアウトリーチ事業として「ふれあいコンサート」を実施し、より多くの年齢層にクラシック音楽を親しんでいただくことができた。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	本来の音楽祭の目的であるセミナーの充実を図りながら、より多くの市民にクラシック音楽に親んでもらえるか。飯田実行委員会、アフィニス文化財団とともに検討していく必要がある。

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	